

エッチュウバイの資源管理に関する研究

(第2県土水産資源調査)

道根 淳

1. 研究目的

エッチュウバイ資源の持続的利用を図るため、ばいかご漁業の漁業実態を調査し、適正漁獲量、漁獲努力等の提示ならびに漁業情報の提供を行う。これにより、本資源の維持・増大とばいかご漁業経営の安定化を図る。なお、調査結果の詳細については、後述する「平成23年度の漁況」に記載した。

2. 研究方法

(1) 漁業実態調査

当センター漁獲統計システムによる漁獲統計と各漁業者に記入依頼を行っている操業野帳を解析し、本種の漁獲動向、資源状態、価格動向、漁場利用について検討を行った。

(2) 資源生態調査

JFしまね大田支所管内ならびに仁摩支所に水揚げされる漁獲物の殻高を銘柄別に測定し、銘柄別漁獲箱数から本種の殻高組成を推定した。また、村山・由木が求めたAge-length Keyを用いて漁獲物の年齢組成を求め、さらに日別漁獲データをもとにDeLury法による資源解析を行った。

3. 研究結果

(1) 漁業実態調査

平成23年のエッチュウバイの漁獲量は53.5トン、水揚げ金額は2,215万円であった。また1隻当り漁獲量は13.4トン、水揚げ金額は554万円であり、漁獲量、水揚金額ともに平年をやや下回った。

利用している漁場は、江津沖から日御碕沖にかけての水深200～230m付近であり、例年利

用していた日韓暫定水域東側の利用は見られなかった。

エッチュウバイの1kg当たり平均価格は413円であり、平成18年以来久しぶりに400円台に回復した。銘柄で見ると、「特大」、「大」、「中」の価格が前年よりも高くなったが、「小」、「豆」は下回った。

(2) 資源生態調査

エッチュウバイの資源状態の指標となる1航海当たりの漁獲量は500kgで、前年を下回ったが、平年を上回った。また、1航海当たりの漁獲個数は7,674個で前年を下回り、平成17,21年に次ぐ低い値となった。漁獲個数の推移を見ると、平成12年以降低い水準での横ばい傾向にあり、資源状況は依然として厳しい状態が続いている。

漁獲物の殻高組成をもとに年齢分解し、漁獲物の年齢組成を見ると、漁獲の中心は2～4歳貝であり、次いで5,6歳貝が多くなっている。今年の傾向としては、各年齢群を満遍なく漁獲している傾向がうかがえた。

4. 研究成果

調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばいかご漁業部会の資源管理指針として利用されており、これをもとに漁業者が自主的に漁獲量の上限を設定し、使用かご数の制限などの資源管理が行われている。

5. 文献

村山達朗・由木雄一：島根県水産試験場事業報告書（平成4年度），64-69（1991）